令和 6 年 10 月 16 日(水)

小山田信茂公顕彰会　第 10 回講演会　演題：武田家滅亡を検証する

島崎

1,　今回の講演者　松本憲和先生

(1) 経歴

・ 神戸の灘中学＆高校、早稲田大学、東京大学大学院人文科学研究科（中国文学）卒業
・ 東京を拠点に「源氏物語」読解の啓蒙活動を行う古典研究家
・ 郡内小山田氏研究で著名、20 年以上小山田逆臣説を否定
・ 大学受験のための国語専門塾「A.S.N ニルの学校」塾長をお茶の水で経営していましたが、昨年健康のため引退し百姓をやっている。
・ 茶道「有楽流」の研究。研究は進んでいないので一番の研究者と言えると思う。

＊有楽流：織田信長の実弟の織田有楽斎に始まる武家茶道の流派

人があまりしない事するのが主義。小山田信茂公の逆臣節の否定や有楽流の研究

(2) 家系

・ 甲斐武田氏の遺臣の子孫。旧温会会員　＊本日旧温会の赤い陣羽織を着用
・ 天正 10 年、織田・徳川連合軍の侵攻時に、祖先が武田家の勝頼公の 2 歳の男児と伯母を埼玉県坂戸まで護送

2,　二級資料の内的批判

(1) 外的批判と内的批判

歴史学研究法という今井登志喜という人の本。これ知っている方はかなりの専門的な人です。歴史学をどのような研究するか書かれている。研究法として「外的批判」「内的批判」の二つがある。

外的批判：ピラミッドであれば何年に造られたか。絵画であればこれは偽物だな。古文書であれば紙の質とか時代が違うとか、或いは墨の年代測定が違う。

内的批判：内容による批判

今の歴史研究家は「外的批判」が中心にやっている。これが正しいと思うのは良い。そこから何を分析していくということがなかなか出てこない。

(2) 外的批判　例：山本勘助

山本勘助は一時期盛んに言われていが、山本勘助の書状が見つかった事で終わりです。それで熱が冷めた。山本勘助という人が見つかった段階で研究は終わりです。その後山本勘助の出てきたいろんな古文書を見て研究した成果をあまり聞いた事が無い。

(3) 外的批判　例：勝頼夫人の願文

私の身近なお亡くなりになった先生でよく飲ませて頂いた方です。その先生が勝頼夫人が勝頼に勝たしてくれと神様にお祈りした物があります。先生が「願文は偽物だ」と言います。確かに偽物だと言う人はいます。多くの人は本物だと言っています。先生に何で偽物かと聞くと、紙が違うと言われます。大名のご夫人は願文書くとき汚い紙に書かない。大名らしい紙を使って神社に奉納する。それはその通りだと思いますが、先生は願文を読んでいないんです。つまり先生は「外敵批判」はした。「内的批判」というのは中を読まないといけない、中身を読んで批判する。

実は私は古文書を読めるので読みました。読むと、ちょっと「ヲ」とか「カ」とか、「カワズ」だったら‥‥と書いてある形跡がある。それは清書じゃないです。試し書きの段階の物。つまり元の文書を考えましたが、それを写していくなかで間違って書いている、これは清書じゃ無いです。大名の奥さんでも試し書きで良い紙を使うわけ無いです。つまり「内的批判」する事によって「外敵批判」は間違っている事が分かる。「外敵批判」だけやって内容に嘘があるかどうかは分からない。まったく無視して良いかどうか分からない。

3,　講演資料

内的批判をしよう。どういうことかというと、今回三つの資料はそれぞれにみんな欠点も長所もある。全部が全部嘘とは限らない、真実も入っている。こういうのを歴史家の間では二級資料という。一級資料は武田信玄が出した書状とか絶対真実である。誰も疑わない。ただ武田信玄の顔が違っていたとか偽物とばれてしまったとかはありますけど。

二級資料をどう扱うか、それの料理の仕方が今日のテーマです。

甲陽軍鑑	甲乱記	理慶日記・朱稿本	信長公記
「甲陽軍鑑」は内容に明らかな間違いが多い。 例：山本勘助が武田信玄に会って仕官した年が間違っている 「甲陽軍鑑」は歴史資料としては使えない。考えたところ見て書いたことでは無く、聞いた話なので正確に書く事は不可能。 歴史研究家の間では資料として使いたくない。使う場合は慎重を要する。	武田氏滅亡に至る３月３日～9日までの情報が殆ど無い。 漢文で書かれた事を入れて意見を述べている。武田氏の滅亡に関しては、小山田氏のお母さんを助けるために恥を晒したみたいなことが書かれているだけだ。 参考になるのは北条夫人の辞世の句「黒髪‥‥」が書かれている。 「甲乱記」が書かれているのは小田原です。おそらく北条夫人の家来達が、甲乱記にしか出てこない辞世の句あるいは手紙を持って北条氏政のところへ行くが、それと一緒に「甲乱記」の作者は逃げたと思います。	理慶日記（江戸終わりの版本）はで「偽書」です。 京都のオークションで朱記した「理慶日記」つまり「理慶日記朱稿本」を見つけた。 朱校本の作者は幕末「小林百枝」（八王子の事を書いている）で富士吉田の「筒屋」という御師の家の写本との違いを朱記したもの。写本に寛永十三年（1636 年）の写しとの記載があるので、原本はさらに古い。 「理慶日記」は「理慶日記朱稿本」の和歌を削って、自分で集めた和歌を入れている。 ＊ 武田家滅亡研究には重要な点が削られている ＊ 「死の真相」という本に書きました。	作者「大田牛一」というのは滅亡を見ていない。完全な伝聞情報に基づいて書いているの。 信憑性が低いのと、武田家滅亡に関しての資料は短いため**今回不採用。** 特に新府城を焼いて人質を焼き殺したというのはあり得ない。 個人見解 戦略的に不利な状況で、人質を殺すことは恨みを買うだけでさらに不利になる。殺す意味が無い。

その他資料

資料名	作成時期	資料内容

案見記		15 日甲斐善光寺の処刑人資料
新編武蔵風土記稿	文化・文政期（1804 年から 1829 年、化政文化の時期）に編まれた武蔵国（御府内を除く）の地誌	埼玉に逃げた人の調査
歴史研究 695 号 平山優氏研究 藤田治部左衛門尉戦功覚書	藤田は元和元年（1615 年）に自らの戦功覚書を、井伊重臣木俣守安に提出した。	現在、記録で判明する限り、田野の現場から、少なくとも土屋昌恒の妻子、小宮山内膳の母と妻子、小宮山又七、脇又市、北条家臣三人らが脱出したと伝えられる。
中尾之郷軍役衆雑考㈥	『甲斐』第 108 号　2005 年 8 月発行 早川家家譜　筆者：早川半兵衛宗貞 ＊ 作者は武田家滅亡時期の人	・ 土屋惣藏が脇又市に「妻子を逃がしてくれと言った。」 ・ 「天正十年十一日甲州天目山において勝頼公御生害の時」。 **＊生害＝自殺**
八王子名勝志	八王子市教育委員会　2014 年発行 江戸末期 筆者：小林百枝氏	・ 八日市宿：「土橋は松姫を守って逃げ、大菩薩を越え武州案下の山中に隠栖す」と書かれています。 ・ 上野原宿(八王子)：信松院に伝わっているのは、始めは田野に行ったが、武田家が滅亡したため、大菩薩越が無理だから山梨市の海洞寺に隠れた。 ・ 大横町(八王子)：「金丸昌義（土屋惣蔵の兄）の息子が、土橋氏と等しく松姫様と一緒に、武田家滅亡時にお母さんに連れられて逃げた。」と書かれている。

4,　講演内容

（1）資料共通事項と孤立事項

	甲陽軍鑑	甲乱記	理慶日記・朱稿本
共通情報	3 月 3 日に新府城を焼いて勝沼に向う	3 月 3 日新府城を出る	3 月 3 日新府城を出る
	3 日～9 日 7 間鶴瀬逗留	3 日柏尾到着、小山田の迎えを待つ	3 日柏尾到着
		日付不明：駒飼に移動	4 日駒飼に移動。
	9 日夜、人質が消え、発砲により小山田の裏切りが発覚	夜人質の小山田母が消え、小山田の裏切りが発覚	七日夜半：小山田、母を連れて郡内へ
	10 日朝：勝頼公田野へ移動。	10 日田野に移動	10 日：小山田笹子峠を封鎖で、小山田の裏切り発覚。
孤立情報			6 日暮：小山田、勝頼公に面会。敵が迫っているので、早く岩殿に来ること、母を返すことを頼む。
	日付不明：小山田信茂、鶴瀬より郡内の方に城戸を作る。		
	日付不明：小山田八左衛門が鶴瀬に来る		
	9 日夜：小山田八左衛門・武田左衛門、小山田兵衛人質を奪い郡内へ。小口から発砲。小山田の裏切り発覚。		
	10 日朝：小宮山内膳、勝頼公に面会。		
			10 日暮：曽根兄弟笹子へ移動。
	11 日：新館御料人（松姫）を天目山奥に落とす。勝頼公死亡。		

(2) 地図

a) 駒飼から大月まで泊まるような処は無い。

b) 鶴瀬から大月まで 7 時間は掛る。

c) 鶴瀬と駒飼の間には丘がある。

図 1　大善寺―笹子峠 11Km

図 2　大善寺―笹子峠―大月　32Km

柏尾・大善寺

駒飼宿（現日影）

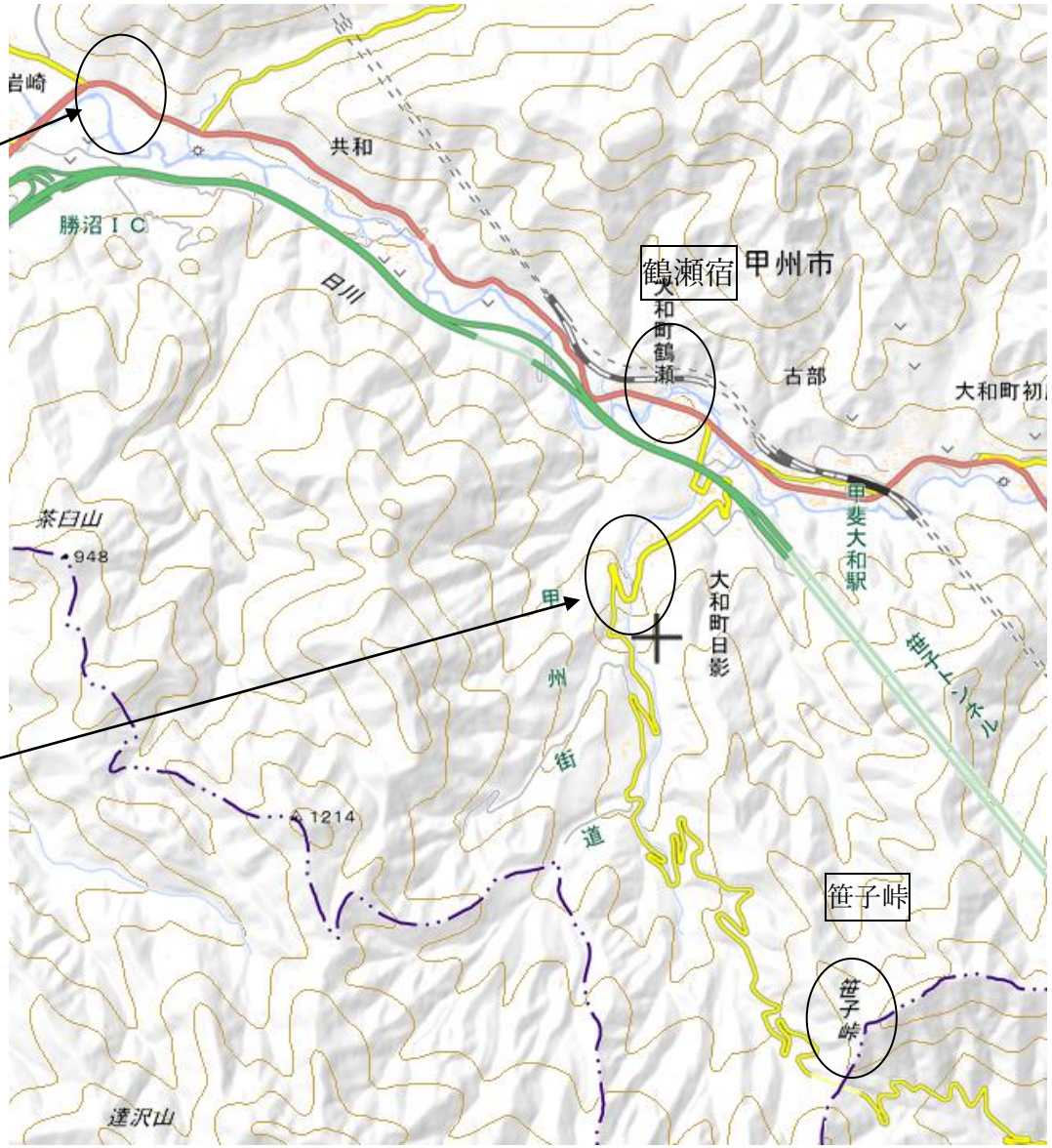

図３　柏尾、鶴瀬、駒飼、笹子峠

(3) 内的批判と私案

前提条件：新府城で岩殿に行くと決まった際に、勝頼の妻子・近習は笹子峠コースを取ったが、資料に書かれていないと居ないことになっているが、多くの武将は鎌倉街道(御坂峠)を通って岩殿に向い集まっていた。笹子峠は道が細く武器などを運ぶのには不適な道であった。

松本先生調べ、当時大月には、真田昌春・天野藤秀ら有名武将がいた。「新編武蔵風土記稿」という本に出ています。この人達は有名な武将がいて、真田昌春って隠岐守といわれる人です、その人が息子と一緒に逃げている。なぜ知っているかというと、松本先生の先祖と一緒に坂戸まで来ている。

項目		甲陽軍鑑	甲乱記	理慶日記・朱稿本
松本私案作者		日川渓谷内に居た	日川渓谷に居て勝頼夫人の供回りと一緒に鎌倉に行った一行の中に居た人。 脇又市ではないか。＊平山氏『新発見の藤田治部左衛門尉戦功覚書』より生存者	朱校本：大月に居て同時代の人に会って話を聞いて書いた。 ＊大月には武将が 版本：理慶尼が朱校本を変更した本。
3月3日	記述	新府城を（焼いて）出る		
	検討	共通情報　真実		
3月3日からの宿泊	記述	3日～9日7間鶴瀬逗留	3日柏尾到着	3日柏尾到着
			日付不明：駒飼に移動	4日駒飼に移動。
	検討	勝頼側近の武士と妻子、その供回りを連れているので人数は多い。		
	私案	柏尾、鶴瀬、駒飼3箇所の記載のみ、人数が多いので1箇所では泊まれない。分宿していたと考える。 鶴瀬には武士(男)、駒飼には女子供がいたと強く感じさせられた。		
	記述	孤立情報：日不明：小山田兵衛（信茂）、鶴瀬より郡内の方に城戸を作る。		

項目		甲陽軍鑑	甲乱記	理慶日記・朱稿本
	記述	孤立情報：日不明：小山田八左衛門、鶴瀬に来る。 ＊ 八左衛門は、勝頼公が可愛がっていた武士だったと書いてあります。		孤立情報：6 日暮：小山田、勝頼公に面会。敵が迫っているので、早く岩殿に来ること、母を返すことを頼む。
	検討	八左衛門が素肌で来たということはもう戦う気はないということ、もう一緒に死のうとそういうふうに来た。		6 日に織田・徳川軍が甲府に入る。 記載の信憑性は不明である
	私案			
7 日	記述			夜半：小山田母を連れて郡内へ
	検討			孤立情報：勝頼公と小山田はまだ敵ではないのに、夜半(真夜中)に、母を連れて笹子峠を越える必要があったのだろうか。この記載は、疑はしい。
9 日夜	記述	孤立情報：小山田八左衛門・武田左衛門、小山田兵衛人質を奪い郡内へ。小口から発砲。小山田の裏切り発覚。	日付不明：夜人質の小山田母が消え、小山田の裏切りが発覚	
	検討	八左衛門、一緒に死にたいと来たのに人質を奪って逃げ、鉄砲を撃った此処だけだと考えが分からない。	発砲の記載が無い 鉄砲の音が聞こえないのに、裏切りと分かってい無いのに、母だけ逃がしたのか少し食い違っている。	
	私案	母と書かなかったのは、情報者？が 駒飼に居た人質母を分からなかったのではないか。	著者が駒飼に居て、地理的に山があって鶴瀬の発砲音が聞こえない。	

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>甲陽軍鑑</th><th>甲乱記</th><th>理慶日記・朱稿本</th></tr>
<tr><td rowspan="4">10 日</td><td>記述</td><td>孤立情報：朝　勝頼公田野へ移動。小宮山内膳、勝頼公に面会。</td><td>田野へ移動
小山田は己が館に立帰り…更に往還を留む</td><td>小山田笹子峠を封鎖で、小山田の裏切り発覚。
孤立情報：暮：曽根兄弟笹子へ移動。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">検討</td><td></td><td colspan="2">曽根兄弟は笹子峠を越えており、封鎖は怪しい
＊　曽根兄弟の話は刊本の「理慶日記」にはありません。理慶尼はいらないってここを削ったんです。</td></tr>
<tr><td>朝には裏切りが発覚したので勝頼公が田野に移る。
小宮山内膳が勝頼のお供をして死ぬために現れる。
「土屋惣藏が、脇又七に頼んで子供と女房を逃がしたので、お前も逃がせ」こういうことを惣蔵が言う。</td><td></td><td>笹子峠を封鎖で小山田の裏切り発覚は間違い。裏切り発覚は発砲です。
朱校本作者は曽根兄弟の笹子越をなぜ知ったか？会ったからと思われる。
後に父下野入道と共に古府中で殺されているのをみると、「案見記」で兄弟は父と会うために、笹子峠を越えたのだろう。</td></tr>
<tr><td>私案</td><td>小山田八左衛門、小宮山内膳（勝頼公より破門の身）が、何故会いに来たのか。
ただ会いに来たと書いてあるが何をしに来たのか。なぜ二人だけ来たのか。本来ならもっと大勢来てもおかしくない。</td><td>作者は、この後小田原に逃れているので、笹子峠は封鎖されてはいなかったろう。
作者は頭の中で小山田の裏切りというのがこびりついていて書いていると思われる。</td><td></td></tr>
</table>

項目		甲陽軍鑑	甲乱記	理慶日記・朱稿本
11 日	記述	孤立情報：新館御料人（松姫）を天目山奥に落とす。勝頼公死亡。		
	検討			
	私案	死亡：同時代人「記録中尾之郷軍役衆雑考㈥」早川家（旧温会元会長）家譜に**勝頼公生害(自殺)と書かれている**。 松姫様：土屋惣蔵などの妻子、北条夫人の供回りの人々は笹子峠を越えて逃げている。土屋の兄の金丸を含む松姫一行も同様に笹子峠を越えて逃げたと思う。旧暦 3 月 11 日は新暦 4 月上旬で、大菩薩峠（標高 2,000m）を、幼児を含んだ一行（少なくとも 100 名）が越えるとは思えない。		

松本私案：3 日～9 日まで何やっていのか？　2 歳の息子の病気のための滞在で考えて自殺か？

＊　鎮目に芍薬塚があり、2 歳の息子が母と死に別れた事になっている。実際は、息子は松本先生の先祖と一緒に埼玉の坂戸に逃げている。裏切りは、岩殿山城に武田家の武将が大勢居て無理、仮に裏切りがあった場合では混乱にてもっと死んだ人が多いはずである。死んだのは勝頼と側近と北条夫人・お使いの侍女だけで有る。腹心の妻子などは計画的に逃がしている。

＊　甲陽軍鑑「惣蔵が小宮山又一を呼んで妻子を逃がせと言った。その時に私は家臣である脇又市に妻子を逃げさせろと言った」というふうに早川さんの家譜には書かれています。だからこの話は絶対あった話です。

「八王子名勝志」という本は江戸幕末に「理慶日記朱校本」と同じ作者。土橋氏が松姫様を守って大菩薩を越えて逃げたとか、山梨市の寺に隠れていたとか胡散臭い話が書かれている。

以上